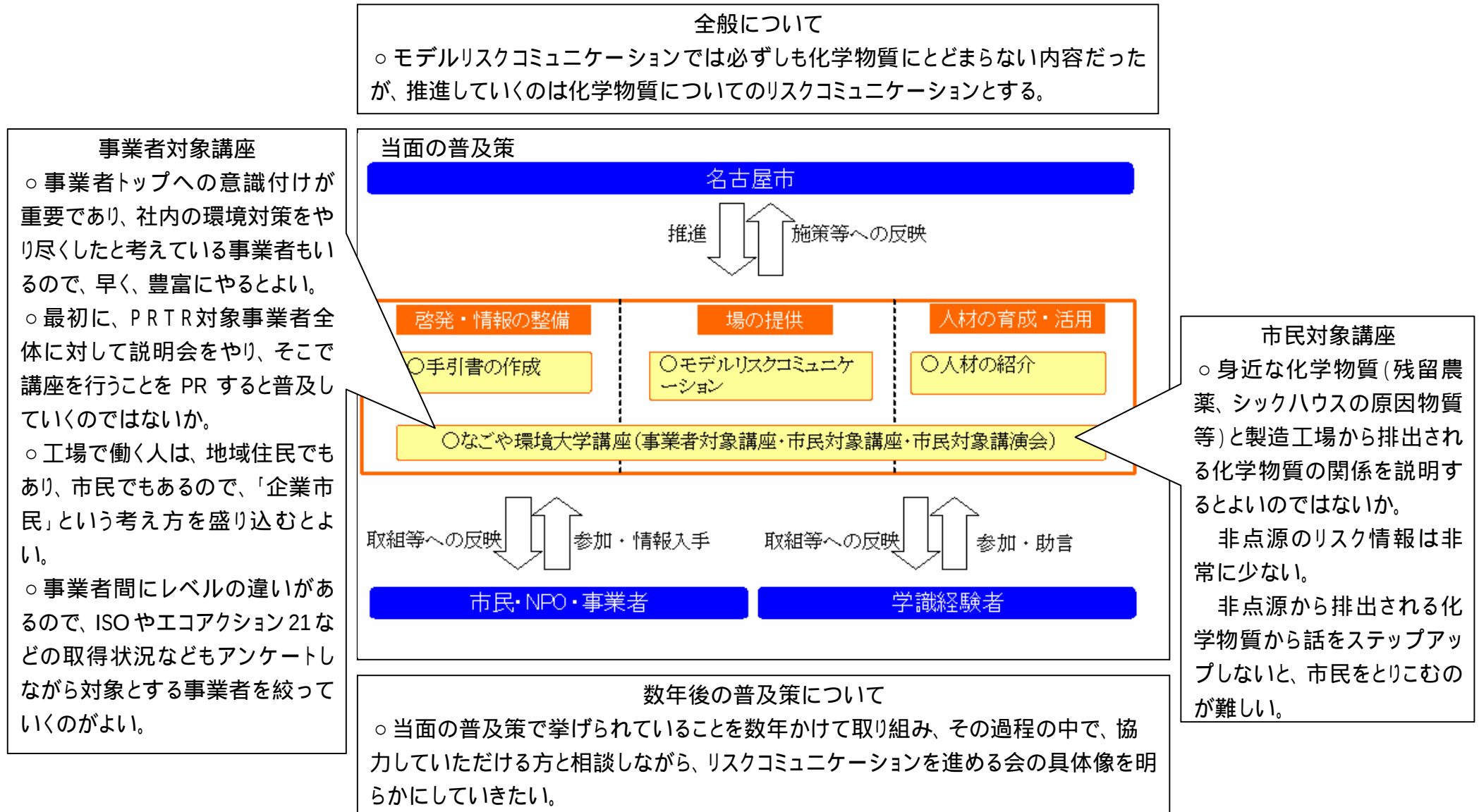


第8回懇談会で出た意見の概要

議題1 リスクコミュニケーションの普及について



議題2 手引書の作成について

リスクコミュニケーションのテーマ
○「有害物質が排出」よりも「化学物質の使用」のほうが、幅広く事業者をとりこめ、市民にも参加をよびかけやすい。

ファシリテーターの役割
○議論を整理するのではなく促進するのが役割である。
○会議の進行のルールを決めるのは参加者であり、それを促進するのが役割である。
○質問内容と異なる回答が出た場合、事実を会場全体で確認し、必要なら回答を促すのが役割である。

「-なごや発-化学物質のリスクコミュニケーションのすすめ」

目的 普及啓発 + 具体的マニュアル

対象 事業者

内容

はじめに
リスクコミュニケーションとは？
リスクコミュニケーションを行うきっかけ
日頃からのコミュニケーションの充実
参加者の役割
参加者を決めよう
プログラムを組み立てよう
説明のための資料を作ろう
工場見学のコースを決めよう
円滑なコミュニケーションのために
プログラムを組み立てよう
説明のための資料を作ろう
工場見学のコースを決めよう
円滑なコミュニケーションのために
説明するときの留意点
実施後のとりまとめ
リスクコミュニケーションの具体例

本編

全般について

○作りきりになるおそれがある。今の手引書はハーフメイドだという認識を持って、今後の実績を事例集として挟むとよい。
○事業者が費用をかけてまでリスクコミュニケーションを行うことのメリットをもっと押し出すとよい。
CSRに努力しているということが、企業のイメージアップのメリットにつながっていく。
○事業者の方に説明するときは、
コンプライアンス
情報開示
リスクコミュニケーション
の3段階くらいで、一步步段階を上がっていきましょうと説明するのがよい。

プログラムの組み立て

○準備は万全に、しかし、現場ではそこで起こったことを大切に、プログラムの変更にも柔軟に対応するとよい。